

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13186

研究課題名（和文）戦国期の誓約をめぐる社会史的思想史的研究

研究課題名（英文）A social and intellectual history Study on Oaths in the Sengoku Period

研究代表者

山本 春奈（Yamamoto, Haruna）

大谷大学・真宗総合研究所・研究員

研究者番号：00844359

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：誓約事項に続き、その違反時に神仏罰を受ける旨を複数の神仏名（勧請神）を伴って記載した起請文について、勧請神がどのような基準で選択・配列されていたのかを明らかにするため、本研究では、梵天・帝釈や「日本国中大小神祇」といった文言、八幡大菩薩や天満大自在天神などの日本の主要な神仏を中心に、勧請神の起請文への記載状況を整理・分析した。その成果として、中世を通じて日本全国で発給された起請文を収集し、データベース化するとともに、このうち中世後期の事例を一覧にして公開した。これにより、これまで地域や家単位など、個別的な特徴しか掴めなかった中世後期の起請文について、その全体像の把握が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

起請文はこれまで、社会史や思想史、法制史など様々な分野で取り上げられてきたものの、いまだに勧請神の選択・配列基準、勧請神全体の構造などについての統一的な見解が示されていない。とくに中世後期の起請文は、地域や家、寺社単位などで個別に研究が進められてきた。本研究の成果は、これらの個別的研究における基礎的研究として位置づけられる。また、具体的な勧請神の選択・配列基準などが明らかになることで、当時の誓約の場面における神仏の機能が明らかになり、神仏に対する畏敬の念が希薄化するとされてきた戦国期の時代的評価の見直しにも繋がると考える。

研究成果の概要（英文）：A pledge detailing the punishment for violations and listing the names of multiple deities, was examined in this study to clarify the criteria for the selection and arrangement of the invoked gods. Focusing on major Japanese deities such as Bonten, Taishakuten, as well as expressions like "various gods throughout Japan," and deities like Hachiman and Tenman-Tenjin, the documentation status of invoked gods in the written pledge was organized and analyzed. As a result, written pledges issued nationwide throughout Japan during the medieval period were collected, a database was created, and examples from the late medieval period were compiled and made public. Consequently, it became possible to grasp the overall picture of written pledges from the late medieval period, which previously could only be understood based on individual characteristics such as region or household.

研究分野：日本中世史

キーワード：起請文 神仏 勧請神 武家 寺社

1. 研究開始当初の背景

中世を通じて誓約の場面において用いられた起請文は、誓約事項に続いて、その違反時に神仏罰を受ける旨を、複数の神仏名(勸請神)を伴って記載した点に大きな特徴がある。この起請文は、社会史をはじめ、思想史や法制史、地域史など様々な分野で取り上げられてきた。ただし、戦国期以降の起請文をめぐっては、当時の武家の間で主従形成や同盟・和睦といった重要な場面で起請文が積極的に利用されていた状況が認められる一方で、神仏に対する畏敬の念の希薄化を背景に、形骸化していくとの見方が長年一般的(千々和到「中世民衆の意識と思想」1981年)であった。近年は起請文の機能性や儀礼性の面から形骸化論が見直されつつあるものの、勸請神の役割についてはほとんど触れられていない。一方で、勸請神に注目した研究では、そこから中世人が持っていた神仏世界観(佐藤弘夫『起請文の精神史』2006年)が読み取られているをはじめ、大名権力や地域秩序の形成における地域鎮守の機能などが明らかにされている。しかし、いまだに勸請神の選択・配列基準や勸請神全体の構造などについては統一的な見解が示されているとは言い難く、誓約の場面において、なぜ・どのように神仏が必要とされたのかが明らかになっていない。

2. 研究の目的

研究代表者はこれまで、戦国大名の起請文に記載された国鎮守や氏神について、それらの神仏がどのような基準で選択されていたのかを明らかにしてきたが、勸請神同士の関係性や勸請神全体の構造の解明にまでは至っていない。本研究は、勸請神の選択・配列基準や勸請神全体の構造を明らかにし、その作業を通じて、戦国期の人々が誓約の場面においてなぜ・どのように神仏を必要としたのか、その社会的・思想的背景の解明を目指すものである。

3. 研究の方法

研究代表者を含め、従来の研究では、国鎮守などの地域鎮守をはじめ武家や寺社の氏神など、勸請神の中でも比較的起請文作成者等にとって身近な神仏ばかりに注目してきた。しかし勸請神の選択・配列基準や全体の構造を明らかにするためには、このような身近な神仏への注目のみでは不十分である。よって本研究では、特定の地域や家に限定されず、全国の起請文に確認できる梵天・帝釈や「日本国中大小神祇」といった文言、八幡大菩薩や天満大自在天神などの日本の主要な神仏(以下、まとめて「日本の主要な神仏」と示す)に注目し、これらの神仏がどのように選択・配列されていたのかを明らかにすることを目指した。

研究開始当初の計画に則り、中国・九州地方の起請文を事例に、日本の主要な神仏の記載状況を整理し、その特徴を検討することからはじめた。また同時に、起請文以外の史料や先行研究から、日本の主要な神仏への信仰のあり方を確認し、それらと起請文への記載状況の関連性を探った。しかし、両地方の事例と他地域との比較が必要不可欠であること、また、全国の状況を一度に把握できるものがないこと(とくに中世後期)から、中世を通じて発給された起請文を広く収集し、データベースを作成することとした。

4. 研究成果

2020年度は、中国地方および九州地方の起請文における日本の主要な神仏の特徴を整理・検討した。結果、両地方では天照大神が1400年代から1500年代前半にかけて確認できるが、1500年代後半頃からほぼ見られなくなり、その一方で、愛宕権現や摩利支尊天が1500年代後半から増加するなどの特徴を見出した。ただし、中国地方で天照大神を記載していたのは一部の武家に限られるなど、一概に地域では括れない状況も明らかとなった。

上記作業と並行して、先行研究および起請文以外の史料から、日本の主要な神仏に対する信仰の全国的特徴や、同信仰の中国・九州地方への伝播状況などを確認した。関連史料については、室町期以降成立の軍記・兵法書・日記などにみられる日本の主要な神仏に関する記事を収集し、中国・九州地方の自治体史などでも同神に関する信仰状況を把握した。この作業を通じて、ある主要な神仏の信仰が地方へ伝播・拡大した時期と起請文に記載されていた時期にはズレがあることを確認した。このことから、主要な神仏の起請文への記載は、単なる地方への信仰伝播の結

果とは言えず、起請文独自の神仏選択基準を考慮する必要があることを指摘できる。

2021年度以降は、特定地域に限らず全国を対象に、日本の主要な神仏を含めた勸請神全体の記載状況を把握するため、中世を通じて発給された起請文の収集とデータベース作成に着手した。研究開始前に収集済みの史料に加え、起請文を地域的・時代的に幅広く収集するため、主に刊行済みの史料集から事例を収集した。具体的には『大日本古文書 家わけ』シリーズ、時代別の遺文シリーズ、各自治体の主要な資料編、その他各種史料集などを使用し、神仏名および罰文（「照覧」のみも含む）の記載がみられる文書を博搜的に収集した。なお、当初は中世後期のみを対象としていたが、勸請神の時期的変遷についても見通せるよう、起請文が現れ始めた平安時代以降、中世全体に収集範囲を拡大した。その結果、5000件を超える事例を収集できた。その他、史料集で原文の確認ができない事例について、他機関での調査を実施した。具体的には、東寺関連起請文の一部を東大史料編纂所において、真宗関連起請文の一部を龍谷大学図書館および本願寺史料研究所において、それぞれ原本や写真版を閲覧し、内容の確認を進めた。

上記で収集した事例は順次、年月日、起請文発給者・受給者名、文書名、神仏名、罰文、出典などの項目別にデータ化した。このうち中世後期の事例2247点を一覧にして、東国編・西国編の2編に分けて『歴史の広場 大谷大学日本史の会会誌』（「大谷大学日本史の会」発行）に掲載した。本一覧により、これまで地域や家単位など、個別的な特徴しか掴めなかった中世後期の起請文について、その全体像を把握することが可能となった。中世前期については平安・鎌倉遺文の事例を一覧化したものがすでに公開されており（千々和到ほか「中・近世の起請文の網羅的収集・分析と起請文の宗教史料としての価値の検討」2007年）、そちらと合わせて確認することで、中世全体を通じた把握も可能である。なお、データベースを通じた勸請神の具体的な分析には至らなかったため、今後の課題としたい。また将来的には、一覧の公開だけでなく、中世前期の事例も含めてWeb上でのデータベース公開を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本春奈	4. 巻 25
2. 論文標題 中世起請文と勸請神に関する基礎的研究 起請文一覧（一）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史の広場 大谷大学日本史の会誌	6. 最初と最後の頁 34-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本春奈	4. 巻 26
2. 論文標題 中世起請文と勸請神に関する基礎的研究 起請文一覧（二）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 歴史の広場 大谷大学日本史の会誌	6. 最初と最後の頁 3-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------